

イスラエルの子たちには王がなく、  
すべての人は自分の目に正しいことを行っていた  
聖書：士2:10-18. 3:7-15. 8:33-35. 10:6-7. 13:1.  
17:5-6. 18:1, 30-31. 19:1. 21:25

- I. イスラエルは墮落して、行政、礼拝、道徳において大混乱になりました——士3:7-15.  
8:33-35. 13:1. 17:5-6. 18:30-31 :
- A. イスラエルの子たちは自分たちの嗣業である地を所有した後、神の命令に従わず、カナンに住んでいる七つの部族を徹底的に追い出し滅ぼすことをしませんでした——士1:27-36。
  - B. 結果として、イスラエルの子たちはそれらの部族の神々に仕え、こうして主の目に悪を行ないました——士2:10-18。
  - C. イスラエルの子たちは、自分たちをエジプトの地から連れ出した主、彼らの父祖の神を捨てました。そして彼らは、自分の周囲にいる民の神々に従い、それらにひざまづいて、エホバを怒らせました——士10:6-7。
  - D. 神は彼らを略奪者の手に渡しました。また神は彼らを敵の手に売り渡したので、彼らはもはや立つことができず、彼らが出て行くときはいつも、主の御手は災いをもって彼らに敵対しました——士2:11-15。
  - E. 士師たちの時代は、イスラエルの歴史において最も暗い期間であると考えてよいでしょう。それはまた悲劇の期間でもありました。
  - F. その時、イスラエルの子たちの中には、神に対する反逆、偶像礼拝（士第17章—第18章）、内紛（第9章）、部族間の敵意と論争（第20章—第21章）、淫行（第19章）、汚れ、残忍な殺し、あらゆる種類の邪悪な行ないがありました。
- II. 「それらの日々、イスラエルには王がなかったので、それぞれは自分の目に正しいことを行っていた」——士21:25 :
- A. イスラエルの民が、自分たちの間には王がなかったと言ったとき、これが意味したことは、彼らが神と神の地位を無にしていたということと、神の王職を認めていなかったということです——士17:6. 18:1. 19:1。
  - B. 神の幕屋はシロにあり、大祭司はウリムとトンミムを持っていましたが、イスラエルは神を無にし、また彼らの王としての神の地位を無にしていたために、イスラエルには行政がなく、管理がありませんでした。こういうわけで、士師記には神の表現がありませんでした——士18:31. 出28:30, フットノート1。
  - C. 士師たちの時代にイスラエルには王がいなかったため、イスラエルの子たちは自分の目に正しいことを行ない、その結果、腐敗し墮落しました——士17:6. 18:1. 19:1. 21:25 :
    - 1. モーセがイスラエルの民に告げた事は、彼らが良き地に入ったとき、自分の目に正しいが神の目には正しくないことを行なうべきでないということでした——申12:8-14。
    - 2. サタンはイスラエルの民に、自分の目に正しいことを行なわせ、不法にならせ、

神がないかのようにならせ、神の制限を投げ捨てさせました。これは士師記第17章から第18章、第19章1節、第21章25節に啓示されています。

3. 今日のクリスチャンはしばしば、自分たちにとって、ある事柄は正しいか間違っているかであると言います。このように生きることは、自分の目に正しいことを行なうことです。

4. わたしたちが自分の目に正しいことを行なうのは、恐ろしいことです。わたしたちは、神の目に正しいことを行なわなければなりません——申12:8。

D. イスラエルに王がなかったとき、権威がありませんでした。そして民はただ、自分たちの好きなように行ないました。これはまさに、この世においても、宗教的な体系であるキリスト教においても、現在の邪悪な時代の状態です——エペソ2:2, 12。

E. 主の回復の中でわたしたちは、士師記に描写されている不法から救い出されて、神の王国の神の支配の下で生き、神のみこころを行なう必要があります——テトス2:14. ガラテヤ1:4. マタイ6:10。

III. 神は、もろもろの時代の王、永遠にわたって絶対的な権威を持つ方であって、彼は決して変わることがありません——I テモテ1:17:

A. わたしたちが信じる神、わたしたちが仕えている神、わたしたちの中へと分与されつつある神は、もろもろの時代の王、永遠の王です——I テモテ1:17. II コリント13:14。

B. キリストは生まれて、王、すなわち、神の民を牧養する支配者となりました。そして彼は今や、王の王、主の主です——マタイ2:2, 6. 啓19:16. 17:14:

1. 王であるキリストはエホバ・神であり、また人でもあります——詩24:8, 10。

2. わたしたちは、キリストがわたしたちの心の中で統治するわたしたちの王であることを認識する必要があります。またわたしたちは、諸地方召会におけるキリストの王職を認める必要があります。諸地方召会において、わたしたちは彼の王職の下で生きます——エペソ3:17. I テモテ3:15. 6:15。

3. キリストは、栄光の王としてやって来ます。栄光の王とは、万軍のエホバ、すなわち、勝利を得た来たるべきキリストの中に具体化された、究極的に完成された三一の神であり、彼は神の永遠の王国で王として支配します——詩24:7-10。

4. キリストがダビデの座で彼の王国を治めることは、まず千年期においてであり、次に新天新地においてであって、永遠に至ります——イザヤ9:7. ルカ1:33, フットノート1。

5. 「一つの座が慈愛によって堅く立てられ、そこにひとりの方が真実にあって、ダビデの天幕の中に座し」——イザヤ16:5:

a. キリストがダビデの天幕の中で王として支配することは、慰め、励まし、復興を表徴します。

b. キリストの御座は、慈愛（優しい愛情）によって堅く立てられます。そして彼は、真実（信実）にあって、彼の御座に座します——イザヤ16:5。

c. もしわたしたちが、キリストにわたしたちの中で王として支配していただき、王国と慈愛、真実、信実、公正、義をもたらしていただくなら、わたしたちはこれらの美德において彼であるのと同じになります——イザヤ16:5。

IV. わたしたちは、不法から、また不法の働き人となることから救い出される必要があります。そして、神に仕えるという原則に従うことによって、神の目に正しいことを行なう必要があります——テトス2:14. マタイ7:21-23:

A. 自分の目に正しいことを行なうことは、不法です——士21:25:

1. 「罪は不法です」。このゆえに、不法は罪であり、反対から言えば、罪は不法です——Iヨハネ3:4:

a. Iヨハネ第3章4節で、「不法」、あるいは、律法がないことが示すのは、神が人を支配するという原則がないこと、あるいはその原則の下にいないということです。

b. 罪を犯すことは、律法を持たないこと、違犯を犯すことです。

c. 神の目に、人が罪を犯すのは、人が自分自身の性質や考えにしたがって行動し、自己の意志にしたがって歩き、神の権威に対して反逆する時です。

d. 不法は、神の権威を認めず、それに服従しないことです。

e. 不法を実行することは、人に対する神の支配する原則の外で、その原則の下にない生活をするということです。現在の時代は、不法と反逆とに満ちています。

f. 不法の中で、人は権威に対して反逆するだけでなく、律法がないかのように行動します。

2. キリストはわたしたちを彼ご自身へときよめて、特別な民とならせ、彼の特有な所有とするために、ご自身をわたしたちのためにささげて、わたしたちをすべての不法から贖いました——テトス2:14。

B. 「わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者がみな、天の王国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行なう者だけが入るのである」——マタイ7:21:

1. 主を呼び求めることは、わたしたちが救われるのに十分です。しかし、天の王国に入るためには、わたしたちはまた天の父のみこころを行なう必要があります——ローマ10:13. 12:2. マタイ12:50. エペソ5:17. コロサイ1:9。

2. 天の王国に入ることは、天の父のみこころを行なうことを要求するのですから、それは再生されて神の王国に入ることとは明らかに異なっています——ヨハネ3:3, 5:

a. 神の王国に入ることは、神聖な命の誕生を通してです——1:12-13. 3:5-6。

b. 天の王国に入ることは、神聖な命の生活を通してです——マタイ7:21. 12:50。

C. 主の御名の中で予言し、悪鬼どもを追い出し、多くの力あるわざを行なった者たちを、主イエスは叱責しました。なぜなら、彼らは「不法の働き人」として、神のみこころに対する服従からではなく、自分自身からこれらの事を行なったからです——マタイ7:23:

1. 宇宙には二つの原則があります。すなわち、神の権威の原則と、サタンの反逆の原則です——使徒1:7. イザヤ14:13-14:

a. わたしたちは、一方において神に仕えながら、他方において反逆の道を取ることはできません。わたしたちは不法の原則から離れ、反逆の道を拒絶しなければなりません——マタイ28:18. ユダ11節。

b. 神に仕えることは、神の権威と直接の関係があります。もしわたしたちが権威の事柄を解決しないなら、わたしたちの奉仕のあらゆる面において問題を持つようになるでしょう。

2. どうか主がわたしたちの奉仕を、神の権威と御父のみこころへの服従という原則の中に保ってくださいますように——使徒1:7. マタイ7:21. 12:50。

V. 士師記に記録されている行政、礼拝、道徳における大混乱は、旧創造におけるサタンの大混乱を描写しています——創3:1-5. 啓20:10—21:4:

A. 宇宙は、大混乱の状態にあります。この大混乱は、今日のこの世における苦難の源です。創造における大混乱がある限り、この世には苦難があります——ローマ8:18-22。

B. 宇宙の歴史は、神のエコノミーとサタンの大混乱とについての歴史です——創1:1-2, 26. 啓20:10—21:4:

1. 悪魔サタンは、邪悪な大混乱の源と要素です——マタイ16:23. 啓2:9-10. II コリント2:11. I ペテロ5:8。

2. 神ご自身が神聖なエコノミーです。そして彼はわたしたちの中へと入って来て、行政、案配、ご計画となり、あらゆる事を秩序正しくしました——エペソ1:10. 3:10。

3. 聖書の中で、またわたしたちの経験の中で、サタンの大混乱は常に神聖なエコノミーと並行し、実は神のエコノミーを助けています——エペソ3:9。

C. わたしたちは大混乱と反逆と不法のただ中に生きている者たちとして、神のエコノミーについての明確なビジョンを持つ必要があります——詩2:1-6. 箴29:18前半. エペソ3:9:

1. わたしたちはこのビジョンによって統治され、制御され、導かれる必要があります——使徒26:19。

2. わたしたちは、神のエコノミー、すなわち、神の永遠のみこころのビジョンにおいて、堅固でならなければならない、揺り動かされないようにしなければなりません——エペソ1:10. 3:9. 啓4:11. I コリント15:58. ヘブル12:28。

D. 勝利者は、旧創造におけるサタンの大混乱を征服し、新創造のために神聖なエコノミーを遂行します——I テモテ1:4. エペソ1:10. 3:9-10. II コリント5:17. ガラテヤ6:15:

1. 勝利者たちは、サタンの大混乱から救い出されるのではありません。そうではなく、彼らは、破壊するサタンの大混乱を征服して、建造する神聖なエコノミーにおいて勝ち誇ります——I テモテ1:3-4, 19-20. 4:1-2. テトス3:10. II テモテ1:15. 4:8。

2. 勝利者たちは大混乱に苦しんでいるとき、「キリスト・イエスにある恵みの中で力づけられ」(II テモテ2:1)、神聖なエコノミーのために立ち、それを生かし出すことができます——II テモテ1:10-15. 3:14-17. 4:2, 5, 7, 18。